

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100582		
法人名	有限会社ナオエ		
事業所名	グループホームしのぶ園		
所在地	佐賀県佐賀市本庄町大字袋326-20		
自己評価作成日	平成24年2月21日	評価結果市町村受理日	平成24年6月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成24年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅街にありながら、スーパー、ディスカウントストア、薬局及び、飲食店が多く建ち並び、買い物にも便利であり、軽食、デザートにと楽しめる環境にある。
昼夜共に、往診をして下さるドクターによる行き届いた医療で、家族の安心を得ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな住宅街に位置する、民家改修型のグループホームである。近隣にはさまざまな店があり、歩いて買い物などを楽しむことができる。地域の行事への参加や近くの保育園などとの交流で、入居者が外部と接する機会を多く持たれている。安全面での配慮に特に力を入れ、家具の場所や配置を工夫されたり、センサーマットを導入したりされている。協力医療機関との良好な関係や、勤務年数の長い職員が多いことも、安心・安全な支援へとつながっている。また、職員への資格取得や外部研修等の参加の促しも積極的に行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の「笑顔・ゆったり・楽しく」家庭の様に過ごしてもらう介護に努めている。職員はミーティングや申し送りの際に唱和している。ホールにも掲示して誰もが目につくようにしている。	「笑顔・ゆっくり・楽しく」という職員全員で考えた理念を居間に掲示されている。また、ミーティングや申し送りの際に唱和することで、理念を共有して実践につなげられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、祭り、清掃活動にも参加している。散歩等の時にも挨拶を交わしている。園の行事案内のチラシを入居者と一緒に配布し、交流を深めている。	地域の祭り等の行事や近隣の保育園、福祉事業所の行事に参加されている。また、散歩の際に近所の方と挨拶を交わし、日常的にも交流をされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員さん、近隣の方々、特に高齢の近隣の方々に運営推進会議に参加して頂き、入居者の一日の過ごし方を理解してもらっている。在宅介護の不安の相談等にも対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に民生委員さん、近隣の方々、家族の方々にも参加して頂き、認知症のケースを取り上げ意見交換している。	2ヶ月に1回開催され、入居者の家族、近隣住民、民生委員、地域包括支援センターの参加で活発に意見交換されている。サービスの実際や報告、予定等を話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	佐賀市主催の集団指導に参加している。市町村の担当者に相談、アドバイスを受けている。市の安心サポートを利用している、利用者もおられる。	市の担当者と積極的に連絡を取り、協力関係を築くよう取り組まれている。市社会福祉協議会の安心サポートの担当者とも密に連絡を取り、家族の相談等に対応されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作成し、問題意識を共有する為の会議を通じての話し合いを行っている。	地域の環境を踏まえ、安全確保を第一に、家族の了承を得ながら玄関の施錠をされている。安全ベルトについては、時間を計測し、昼間なるべく使用しないよう配慮されている。	身体拘束に関するマニュアル等作成されているが、施錠に頼らないケアを工夫し、実践されることを今後期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会等にも、随時、スタッフが参加している。ミーティングの際にも取り上げ、学習を重ねている。言葉の暴力についても検討している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	多くの職員が外部の研修に参加している。色々な研修会で学んだことを職員へ伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に必ず重要事項説明書、その他の事項を元に説明を行っている。その都度、質問にお答えし、納得されたうえで、署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を準備対応している。御家族の面会時、又、ケアプラン説明時等、意見を頂き、何でも話して頂けるように対応している。	入居者や家族の意見、要望は苦情受付窓口で対応し、意見箱も設置されている。また、面会時等にも家族からの意見や要望を聞く機会を設け、それらを運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で管理者は、職員とのミーティング、日々の申し送り時等に、常に意見交換を行い、早期解決、改善に努めている。	月1回のミーティングや毎日朝夕の申し送りの際に職員からの意見を聞き、随時運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営運営推進会議で個人の勤務実態を把握している。外部研修へも、積極的に参加を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の全員が、外部研修を受けられるように取り組んでいる。様々な資格取得に努力している職員もいる。他の職員にも情報提供する為、発表の場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との、定期勉強会の呼び掛けには、ほぼ全員の職員の参加での交流を行っている。他事業所の見学等も行い、お互いを高める努力をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人にお会いして、本人のこれまでの人生、好きな事、嫌いな事等、家族の意見、考え等を確認している。環境に慣れられるまでは、細かい言葉掛け、心配りを行い、安心してもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談に至るまでの背景、生活歴、家族の願い、悩み等を確認して、本人の要望に耳を傾け、安心が得られるようにしている。職員が、他入居者との自然な関係作りができるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が見学にみえて、何を必要としているのか、どういう支援が必要か見極めている。初期段階で何が必要か、職員、ケアマネが、常に意見交換し、ケアの実践に生かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意見を尊重し、共に生活する中で気付きの部分を大切にしながら、本人の意思に沿うようなケアに努めている。長い人生経験から、入居者から教えて頂く事も多く、より良い形で支え合える関係に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家庭であるグループホームに、家族が集うのは当然の事と考え、行事の時はもちろん、普段から頻繁に訪問、面会に来てもらい、意見要望を遠慮なく伝えてもらえるように呼びかけてる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、友人、知人の訪問を数多くしてもらうように呼びかけている。ドライブで自宅の周辺までお連れしての支援にも、努めている。	家族や友人など、馴染みの人の訪問が日常的にあっている。また、入居者の自宅周辺へのドライブなど、馴染みの場所とも関係が途切れないよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファの位置などを考慮し、入居者が誰とでも語らいが出来るように努めている。又、職員が、仲介役となり、話の輪が繋がる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調を壊され入院、退去をされて方、特老、老健等に入所された方には、面会に行ったり、家族から、その後の様子を伺ったりしている。相談等には、いつでも対応して、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の暮らし方、好み、生活習慣、希望等を確認するようにしている。家族の意向を取り入れながら、毎日の会話、生活の様子をみて、希望に添えるように努めている。	本人や家族、関係者から意見を収集し、思いや意向の把握に努められている。困難な場合も、情報を家族から十分に得ながら本人本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴を、本人、家族、ケアマネジャーに確認して、馴染んだ暮らし方や、これまでの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活リズムや、過ごし方を大切にして、本人のしたい事、出来る事を確認し、不安に感じている事等を、統合的に、把握して支援するように、努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを基に提供し、記録を残すと共に、御家族の意見と、日常生活状況を踏まえたモニタリングを行っている。ミーティングにおいても、ケア計画を見直す機会を設け、職員の意見も反映するように努めている。	本人や家族、関係者から意見を反映した介護計画を作成し、職員全体で共有されている。また、3ヶ月に1回見直しをし、現状に即した計画に変更されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護日誌や、食事、排泄、飲水等も個別記録し、申し送りノートにも本人の行動、職員の気づきを記録し、全職員が目を通して、情報を共有している。ミーティングにおいても、ケア計画等についての話し合い見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを行い、いつも「その人らしさ」を大切に活かすような支援をしている。誕生会、ボランティアの来園時に家族の出席をお願いしている。毎月、それぞれの家族様への御手紙で状況を知らせている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	静かな住宅街に位置しているながら、近隣にはスーパー、ディスカウントショップ等が多く、一緒に買い物に出掛けている。近隣のデイサービス、保育園の行事、地域の行事にも参加、楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を大切に、了解を得ながら主治医の定期の往診をして頂いている。急変時、夜間も往診をして頂くので、利用者、家族の安心を得ている。必要に応じスタッフ付添にて、他医療機関の受信も行っている。	協力医療機関の往診で対応されている。急変時や夜間の協力体制も築かれている。希望の医療機関への受診は、家族や職員の付き添いで支援されている。職員付き添いの際は、家族に報告されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置を行っており、日常の健康管理を行っている。不在の時は、オンコール体制を取っている。入居者の異常を感じたら、小まめに看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供を行い、不明な点は、いつでも連絡頂くようにしている。しばしば、面会をして状態観察をすると共に、病院サイドとの情報交換を行い、退院時の必要なケアの把握をして、スムーズに戻って来れるような体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を入居された時に家族に説明を行っている。本人の意向や、家族、職員、主治医、看護師と話し合っ、最後まで、その人らしさを大切にすることを方針に盛り込むようになっている。	重度化した場合の指針を契約の際、本人や家族に説明されている。ターミナルケアの際も、状態に応じて家族に十分に説明し、了承を得た上で、医療機関と協力しながら支援されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル等を浴室、ホール等に掲示している。救命救急講習を受講している。誤嚥した入居者に役に立った経緯がある。ドクターを招いての救命講習も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成している。月に一回、夜間の火災を想定した訓練を実施している。災害時の避難場所、そこに行くまでの安全な道筋、時間等も把握している。災害時の水、非常食、オムツ等も常備している。その他、防犯対策として、CSOより来て頂き、訓練をしている。	昼間、夜間を想定した避難訓練を月1回実施されている。災害別の避難経路も把握し、掲示されている。また、日常的に近所に協力を呼びかけ、協力体制を築かれている。災害を想定した非常食や備品等も十分に備蓄されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を維持することを徹底し、丁寧な言葉使いの接し方をしている。個人情報取り扱いには、十分注意を払っている。	一人ひとりの人格を尊重し、丁寧な言葉づかいで対応されている。また、排泄支援や入浴支援の際も、安全を確認しながら、プライバシーを損ねないよう配慮されている。個人情報についても管理に気を配られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた言葉掛けを行っている。言葉での表現が困難であっても、日常生活の中で、注意深い観察を行い、本人の意思をくみ取る様にしている。自己決定が出来るように、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がその人らしく、過ごせるようにしている。 起床や食事を遅らせる利用者もおられ、その日のペースを大事にしてもらう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師が訪問して、利用者本人の好みに添うよう、対応している。 マニキュアを希望される方もあり、スタッフが行って支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きなメニューを伺い取り入れ、買い物と一緒にに行ったりしている。 誕生日、イベント時のケーキ作りは、一緒にされ、トッピング等を楽しんでおられる。	入居者に希望を聞き、献立に反映されている。また、買い物やケーキ作りの盛り付けを入居者と職員が一緒に行い、食事が楽しみなものになるよう支援されている。外食の支援もされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェック表を用いての把握をしている。 一日、六回のお茶等は飲んで頂くよう支援している。体調や身体状況により、食事形態の工夫をして支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きを実施している。 定期的な歯科医の訪問による受診を受けられ必要に応じて、治療をして頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、一人一人の排泄パターンに応じた支援をしている。 尿意、便意のある方は、その都度誘導している。排泄後は、温タオルにて清拭を行っている。	排泄チェック表を用いて一人ひとりのパターンを把握し、誘導することで、トイレでの排泄を支援されている。また、感染症にも配慮され、清拭に使うものは個別に対応されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食後の三回、午前十時、午後三時、午後七時に150～180mlのお茶を飲んで頂いている。個人別排泄パターンを把握し、習慣的な排泄を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夏は午後から、冬は午前中に入浴してもらっている。一人一人の体調に合わせてたり、入浴の順番の希望が多い為に、チェック表を用い、公平になる様にしている。	週3回実施されている。それ以外でも、希望に応じていつでも入浴可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夏は午前中、冬は午後の散歩活動をしている。庭先の花の水やり。日課である買物は利用者の楽しみとされている。 自室で昼寝をされたり、ホールでゆったりと様々に過ごしておられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に服薬内容の説明書をとじている。薬剤の管理も、一日分の区分、一日分の服薬後の空袋を区分して誤薬防止のチェックをしている。 処方された薬を、その都度チェック表で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の後片付け、草木等の水やり、洗濯物のたたみ等、利用者それぞれが出来る範囲で役割を果たしておられる。 カラオケが、皆さん大好きで、いつも楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は必ず、散歩に行かされている。 季節毎の、桜、ツツジ、向日葵、コスモス、紅葉、彼岸花等の見物に、家族の方も一緒に遠出のドライブを楽しまれている。大衆演劇の講演会へは毎年、大きな楽しみとなっている。	日常的に近所へ散歩に出かけられている。また、季節ごとのドライブや年1回の演劇鑑賞など、普段は行けないような場所への外出も支援されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物にいて希望される品物がある時は、金銭管理が不可能な方が多く、自分で所持はされていないので、職員がお金を渡して、直接買って頂けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が望まれた時に、いつでも家族に電話を掛けてよいかを、入居時に確認して、職員が電話を掛けてあげて、本人に渡し話をされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールではソファでくつろいで頂き、対面キッチンからは食事の匂いがして家庭の様である。 毎月、季節の一言を書いて頂き壁に飾っている。 トイレ、脱衣室の窓にはレースの白いカーテンをして、温かい雰囲気作りをしている。	居間には、入居者が作成した季節ごとの壁飾りが飾られ、居心地よく過ごせるよう工夫されている。また、全体的に家庭的な雰囲気となるよう気を配られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファが三つ、テーブル、椅子があり、気に入った場所で、隣同士、おしゃべりしたり、テレビを見たりして、ゆったりと過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた筆筒や、仏壇を持ってこられている。 時計、家族の写真、ぬいぐるみ等を飾られ、居心地良く過ごせるようにしている。	タンスや仏壇など、使い慣れたものや好みのものを持ち込むことができ、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の前に、名札を貼って目印にしている。 トイレも「便所」と書き、分かりやすくしている。 ホールの壁に時計、カレンダーを掲示している。 特に浴室は滑らないマットを床全体に敷いて安全に配慮している。		